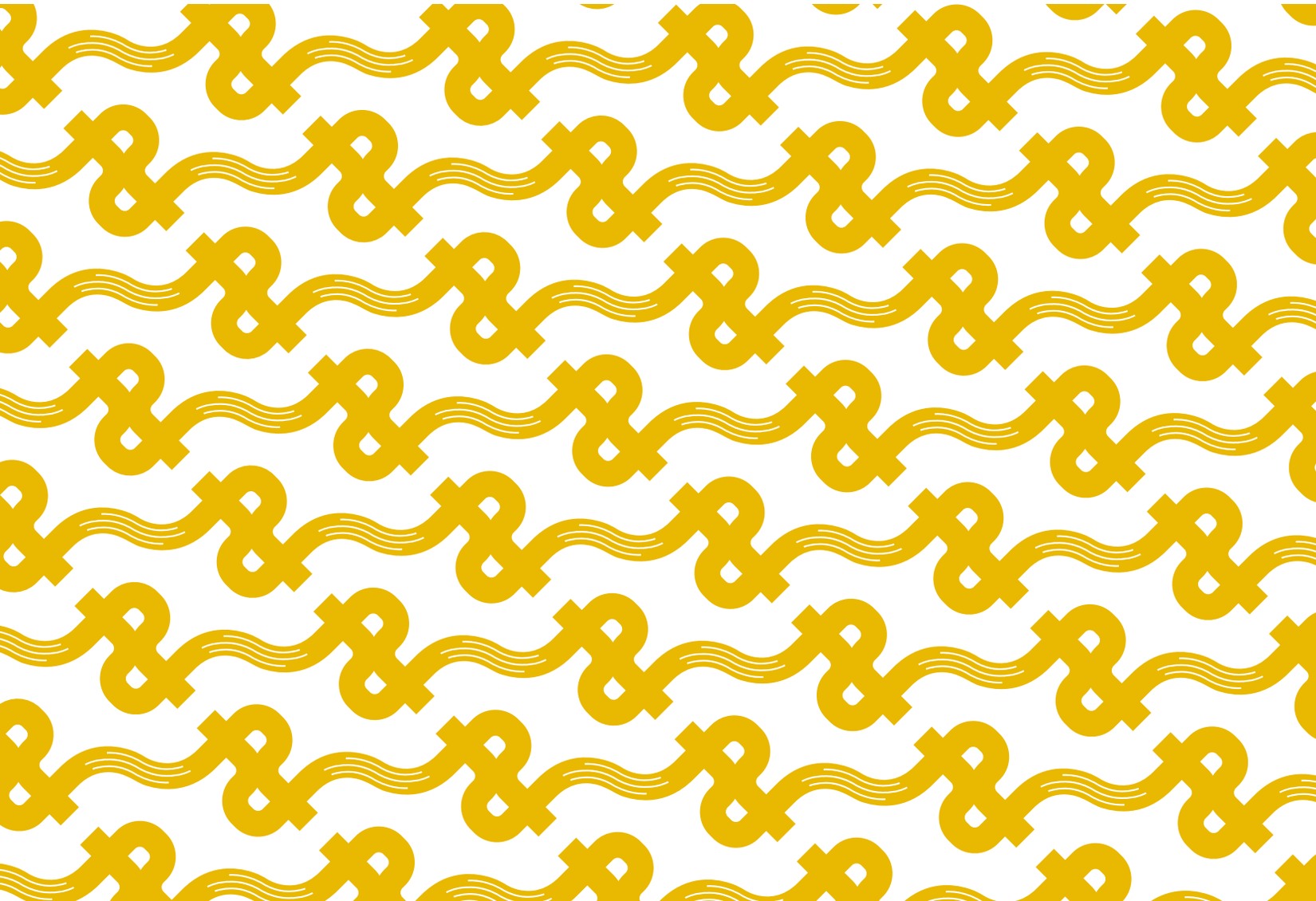
گوش به زنگ



カレーう道とは

「思いっきりカレーうどんをすする」その一心を極める道。
すなわちカレーうどんをすすることへの愛です。

元来カレーうどんはその飛び散りやすい性質から
「思いっきりすすれない」「衣服を汚したくない」などと感じられやすく、
すすることがタブーとされる傾向にあります。
さらに昨今ではヌードルハラスメントの影響もあり、
一層すすりづらい時代となってきました。

しかし、誰しも一度は
「思いっきりカレーうどんをすすりたい！」
そう思ったことがあるはずです。

そんなネガティヴな感情や環境から解放され、
ただ無心に すすり・すすり・すする。

カレーうどんをすすって付いた跡は
決して「汚れ」ではありません。
我々日本人が伝え残していかなければならない
クールな文化の痕跡です。

この教本を手にしたあなたは「カレーう道」の入門生です。
カレーう道具を使いこなし、四十八の食べ型を習得して
あなたの「カレーう道」を突き進んでください。
さぁ、目の前の1杯をすすって参りましょう。

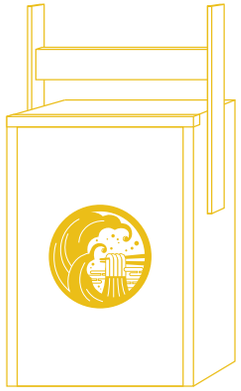
すすることは、香りを楽しむこと

麺をすすると、どのようなメリットがあるのでしょうか。一説では、すする事で麺とスープが絡んだ香り成分を口の中から鼻の奥のニオイセンサーへ届けることができ、風味を存分に楽しむことができると言われています。日本人は自然とそれを実践し、様々な麺料理を楽しんできました。

しかし、カレーうどんの魅力でもある粘りや色の濃度によって、数ある麺料理の中、カレーうどんは特にすすることを拒まれてきました。カレーうどんに必要不可欠なスパイスは、香りがその命です。カレーうどんの全てを楽しむ為には、すすることは必要不可欠と言えると考えます。

四十八手

道具



岡持ち

いつでもどこでも思いっきりカレーうどんを楽しむための道具箱。町のそば屋から始まったとされるカレーうどんの歴史に思いを馳せて。

教　本

カレーう道を基本から学ぶことができる１冊。読み込んで実践すれば、あなたもカレーう道の伝道師。

どんぶり

カレーうどんを思いっきり楽しむ為には、まず器選びから。あなたのお気に入りの器を入れてあなただけのカレーう道を見つけましょう。

道　着

道着を着用し、カレーうどんを味わう準備をしましょう。１本集中。純白の道着はあなたのキャンバスです。

道着袋

飛び散った跡はカレーう道を極めた証。退色の原因となる紫外線から守ります。カレーう道の軌跡を残しましょう。

一 すゝり

基本のかたち。
背筋をピンと伸ばして思い切り。

二 にらみ

まずは外見をよく眺める。

三 威厳

あぐらをかく。
堂々とした振る舞いで。

四 手垣根

付近に人がいる場合に。
手を垣根のように。

五 猫もどき

飛び散りを防ぐ姿勢。
猫背で丼を覆うように。

六 温もり

手のひらで丼を包み込み温もりを感じる。

七 痺れ足

正座で食べる。

八 掻き込み

素早くかき込む。
熱いものは熱いうち。

九 代謝

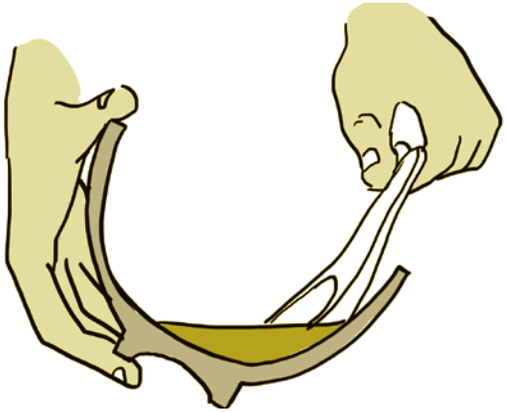
汗を流しつつ。
健康のあかし。

十 吸い込み

食べる前に香りを楽しむ。
想像力を膨らませて。

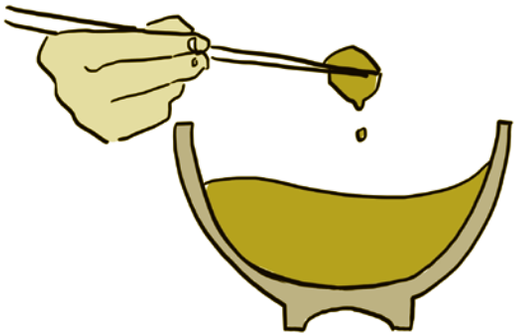
十一 寄せ掬い

どんぶりを傾け、
スープを集める。



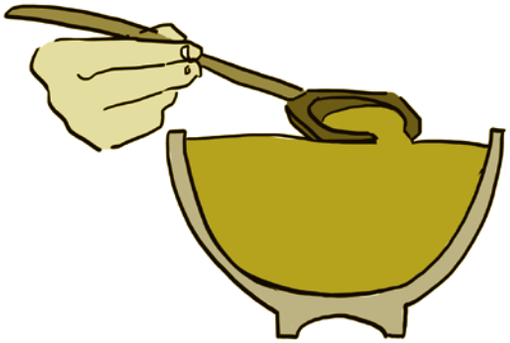
十二 麺とスープと私

具を先に全て食べきる。
麺とスープだけを
純粋に楽しみたい時。



十三 こだわりのひとくち

最初にスープを
一口飲む。



十四 合奏

すすりの音は十人十色。
響きあうハーモニーを楽しんで。

十五 髪まとめ

食べる前に髪を結ぶ。

十六 ご利益

スパイスの恵みを湯気からも。

十七 曇り眼鏡

湯気で曇る眼鏡。
視覚を捨て味覚に集中。

十八 丼かぶり

最後に残ったスープをすする。

十九 箸いらず

そもそも全部飲む。
カレーうどんは飲み物という説も。

二十 飯はずみ

麺をご飯にバウンドさせる。
おかずとしてのカレーうどん。

二十一 掻きあげ

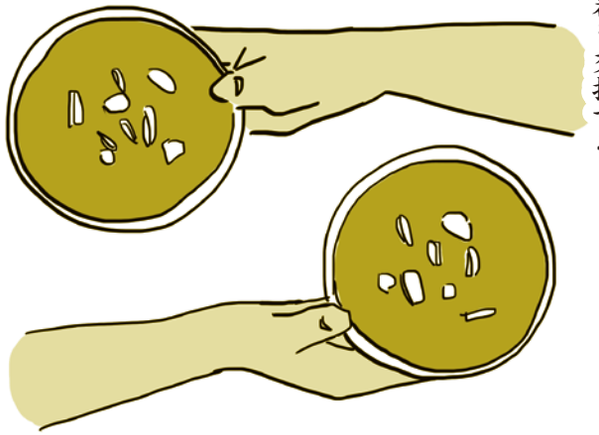
髪を掻き上げながら食べる。

二十二 啜り切り

口に含んだ麺を
一度ですすりきる。

二十三 のーさいど

お互いの器を交換する。



二十四 自己催眠

麺とスープをぐるぐると絡ませる。
「私は空腹だ。」と唱えるとより良い。

二十五 両思い

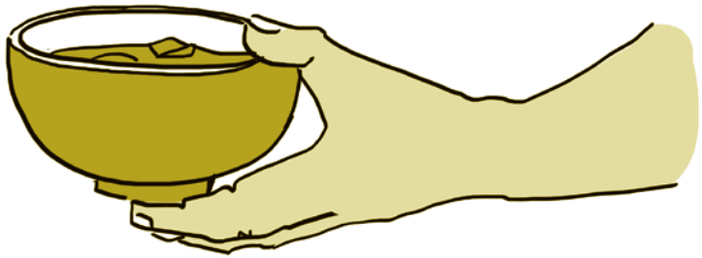
食べさせ合う。
相手の目を見つめて。

二十六 荒療治

風邪をひいたときに。

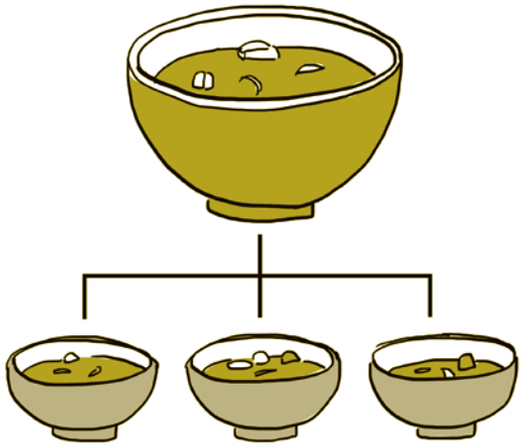
二十七 持ち上げ

どんぶりを手に持つ。
ベストな距離感を
測りましょう。



二十八 取り分け

家族で、仲間で、恋人と。



二十九 熱冷まし

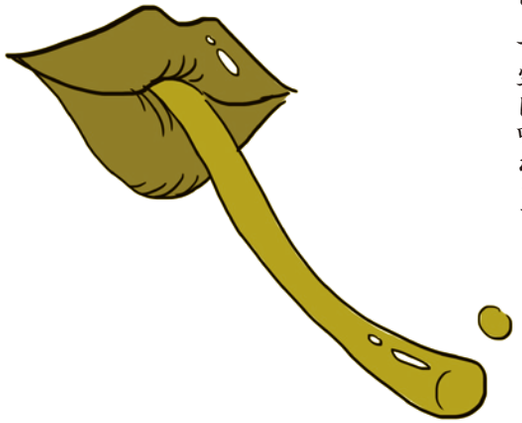
愛を持って息を吹きかける。
猫舌の人は必修です。

三十 初きっす

一口め。

三十一 いちず吸い

麺を一本ずつ食べる。
一途に、丁寧に味わって。



三十二 電車待ち

カウンターで立って食べる。

三十三 膜剥がし

ぴんと張られたラップを剥がす。
出前のみに許された楽しみ方。

三十四 麺の踊り子

すする時に麺の先を躍動させる。

三十五 いたりあん

フォークで食べる。
パスタの様にくるくると。

三十六 啜り泣き

泣きながら食べる。

三十七 背徳の一杯

真夜中に食べる。

三十八 張り込み

電信柱の影で。
ホシを確認しながらのひとすすり。

三十九 体づくり

筋トレをしながら食べる。
エネルギーを即還元。

四十 ばーじん

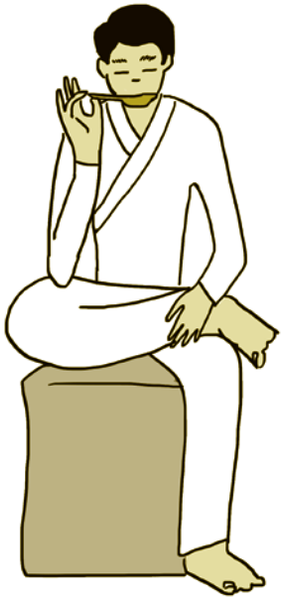
きれいな箸を
スープに付けるその瞬間。

四十一 すりあし

スープがこぼれないよう
上品に。

四十二 弥勒菩薩

澄み切った気持ち
スープをひとくち。



四十三 現場監督

パイプ椅子で。
午後の現場に思いを馳せて。

四十四 青春

河川敷で。
夕暮れが望ましい。

四十五 鑑識

一息置き、飛び散りを確認する。
飛び散り跡は文化の痕跡です。

四十六 不可能任務

天井から
つるされながら食べる。

四十七 豪華客船

後ろから食べさせる。
まるで空を飛んでいるような気持ちで。

四十八 最後の晩餐

人生の最後に食べる。

カレーう道　入門書

令和二年二月十二日　初版発行

企　画　大喜利印刷

印　刷　株式会社 栄光プリント

〒九二〇-〇八〇六　金沢市神宮寺一-一八-二三

TEL　〇七六-二五一-三〇七六

FAX　〇七六-二五二-二九一七

協　力　株式会社 コネル

全日本印刷工業組合連合会